

【科目シラバス案】単位

科目名 : 防災から考える地域福祉ネットワーク ～支えあいマップづくりを契機として～

担当教員 : 田中 純一 (北陸学院大学社会学部 准教授)

連携機関 : 七尾市福祉課、七尾市社会福祉協議会、七尾市内各町会

単位数 : 2

定員数 : 10名

開講期間 : 4月 日～ 9月 日、開講時間 : ガイダンス 月 日 : ～、

開講場所 :

■授業の内容 :

東日本大震災を契機として、全国各地の各町会レベルでの自主防災グループづくりが進められている。また、震災等の有事の際にスムーズな避難や救助活動が行われるかは、平素からの備え、とりわけ地域コミュニティにおける人的なつながりと関係があると言われている。

石川県七尾市では市内251の町会を1つの単位とする「小地域」での「支えあいマップづくりワークショップ」の開催を契機として、各町会コミュニティ内の連携強化や活性化を図っている。

この科目では、座学による学習と、七尾市での「支えあいマップづくりワークショップ」への参加、地域住民へのヒアリング等を行う。現在の地域コミュニティの実態や課題を把握し、その解決に向けてのプランニングを実践的に行うことで、将来の地域コミュニティを担っていく力を身につけることを目的としています。

■学習目標

- ・地域の小規模コミュニティが抱える現状と課題について理解する。
- ・七尾市における地域福祉政策の現状と課題について理解する。
- ・地域住民に対してのアンケート、ヒアリングの実施や、地域住民とのワークショップを通じて、現状課題への理解を深めると同時に、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルを高める

■成績評価の方法

- ・講義、実習参加、レポート (最終報告書)

■授業の流れ

1. 全体ガイダンス、導入講義 「地域と防災」
2. 七尾市における地域福祉政策について ※七尾市より講師として職員派遣を依頼
- 3～4. 「支えあいマップづくりワークショップ」事前地域説明会に参加
- 5～6. 「支えあいマップづくりワークショップ」への参加
7. ワークショップ参加後のふりかえり、追加調査項目の検討①
8. ワークショップ参加後のふりかえり、追加調査項目の検討②
- 9～10. 現地でのヒアリング、アンケート等による追加調査の実施
- 11～12. 追加調査のふりかえりと分析
- 13～14. 分析を踏まえての提案を含む報告書作成とプレゼン作成
15. 七尾市でのプレゼンによる調査結果報告

■地域課題解決への貢献

- ・減災コミュニティという観点から、持続可能な地域社会のあり方についての検討が可能となる。
- ・学生の視点が入ることで新たな地域資源発掘や、今後の地域を担う世代のニーズの理解につながる。

【講座プログラム案】単位なし

科目名 : 創造工学演習 ～からくりコンテスト in サイエンスヒルズこまつ～

担当教員 : (石川工業高等専門学校 専攻科)

単位数 :

定員数 : 10名

開講期間 : 4月 日～ 9月 ※夏休み期間中にイベント、ワークショップを実施。

開講時間 : 毎週 曜 限 : ～、

開講場所 : 石川工業高等専門学校、サイエンスヒルズこまつ

■授業の内容 :

小松市では、「未来を創る ものづくり、ひとづくり」をコンセプトとして、小松駅東「科学と交流」ゾーンに「サイエンスヒルズこまつ」が平成26年春本格オープンする。サイエンスヒルズこまつ内に設置される「ひとものづくり科学館」には、①ものづくり精神の継承と科学技術意識の啓発、②未来に向けた地域の活性化と産業振興という2つのコンセプトが設けられている。このコンセプトに従い、①ものづくり人材の育成、②多様なステークホルダーの協働という2つ視点で地域活性化をはかるイベントとして「からくりコンテスト in サイエンスヒルズこまつ」が開催される。

この科目では、からくりコンテストへの出品作品をチームで製作し、ものづくり活動による技術習得を行う。また、コンテスト出品作品を活用し、①学生による小松市内の小中学生向け科学教室の開催、②小松市地元企業による学生向けレクチャーという2つのワークショップを実施し、製作過程のふりかえりと定着を図るとともに、プレゼンテーションの能力を身につける。

■学習目標

- ・コンテスト出品作品の製作を通じてものづくりの技術を習得する。
- ・チームで協力して製作をすすめる中で、チームワークを身につける。
- ・ワークショップを通じて、多様なステークホルダーとのコミュニケーション能力を身につける。

■成績評価の方法

参加意欲・態度、最終報告書の提出

■授業の流れ

1. ガイダンス、導入講義 からくりコンテスト in サイエンスヒルズこまつについて
2. サイエンスヒルズこまつ現地視察
3. コンテスト出品作品の制作
4. 作品の中間発表及びそれに対する改善実施
5. コンテスト参加 及び 当日運営の一部サポート実施
6. コンテストのふりかえり、ワークショップ準備
7. 作品を活用した小中学生向け科学教室の企画準備、実施
8. 企業から学生へのレクチャーを行うワークショップの実施
9. 活動のふりかえり
10. 以後のプロジェクト継続に向けてのアセスメント

■地域課題解決への貢献

- ・小松市内の小中学生を対象にした科学教室の開催によって、次世代のものづくり人材の育成につながる、「ものづくり精神の継承と科学技術意識の啓発」に貢献することができる。
- ・イベントの開催を契機として、サイエンスヒルズこまつ及びその周辺が学生の研究・実習活動のフィールドとして有効活用され、地域活性化につながる。

【講座プログラム案】単位なし

科目名：スポーツマネジメント演習～七尾・和倉でのサッカーイベントのマネジメント実践～

担当教員：越田 剛史（北陸未来創造学部 教授、北陸大学サッカー部 監督）

神野 賢治（金沢星稜大学 人間科学部スポーツ学科 講師）

連携機関：七尾市文化・スポーツ交流実行委員会、和倉温泉観光協会、（株）石川スポーツキャンプ

単位数：なし

定員数：20名

開講期間：4月 日～ 9月 ※8月中に4日間の大会運営を行う現地実習あり。

開講時間：ガイダンス 月 日：～、毎週月曜 20:00～

開講場所：北陸大学フットボールパーク、和倉温泉多目的グラウンド、他

■授業の内容：

本講座では、石川県七尾市の和倉温泉多目的グラウンドを会場に、全国から大学強豪サッカー部を招いて行う、大型サッカーイベントの企画・運営における実務に取り組む「プロジェクト型学習」である。事前の講義での学習内容をふまえ、参加チーム募集、大会日程調整、広報チラシ・パンフレット作成、スポンサー獲得、予算管理、報告書の作成などの業務をチームで協力し実践する。1つのイベントの準備から実施までのマネジメントに参画する中で、課題を発見し解決する力、チームで物事をすすめる力、主体性をもって臨機応変に対応する力を獲得する。また、イベント実施後は、実施目的に対する評価及び次回への改善点について検討する。

将来、スポーツやサッカーに関わる仕事につきたいと考えている学生にとっても、また、それに限らず、社会に出て多くの人と関わりながら1つのモノに取り組みたいという学生にとっても、どの分野においても生かすことのできる力を身につけることができる内容になっています。

■学習目標

- ・1つのイベントが準備から実施までどのようにマネジメントされているかの流れを理解する。
- ・コミュニケーション能力、チームで物事を進める力、時間管理術などのスキルを身につける。

■成績評価の方法

講義、実習参加状況および参加態度、最終報告書の提出（チームで作成）、最終レポートの提出（個人で作成）

■授業の流れ

1. ガイダンス、事前学習（4月）

学生サッカーフェスティバル「Union Dream Challenge Cup」の概略について（越田）
スポーツイベントのマネジメント①（集客、広報、スポンサー、予算、目的・評価）

2. 事前学習（5月）

スポーツイベントのマネジメント②（集客、広報、スポンサー、予算、目的・評価）

3. 特別講義（5月）

サッカーイベント開催による地域への波及事例 ※外部より講師を招聘

4. 「Union Dream Challenge Cup」キックオフミーティング（6月）

5. 週1回の定例会議での下記項目の進捗把握（6月～8月）

参加チーム誘致、スポンサー獲得、パンフレット作成、予算管理、スケジュール管理

6. 大会当日の運営（8月 日～ 日）※4日間連続の現地実習

7. イベント全体の評価、参加学生の自己評価をふまえた 大会実施報告書の作成、大会決算処理（9月）

8. 参加チーム、スポンサー、関係機関への実施報告とお礼（9月～10月）

9. 全体報告会にてプレゼンテーション（10月）

■地域課題解決への貢献

- ・より多くの学生が関わることで、交流人口が増え、地元地域の活性化につながる。
- ・マネジメントを志向する学生が関わることで施設管理団体が活性化する。
- ・和倉温泉多目的グラウンド及び周辺施設を有効に活用するアイデアが創出される。

【講座プログラム案】単位なし

科目名 : アート・フィールド演習 ～松任まちなかミュージアムプロジェクト～

担当教員 : 森田ゆかり (金城大学短期大学部 幼児教育学科准教授)

連携機関 : 松任駅前中町商店街・おおまち商店街、NPO 法人おやこの広場あさがお、白山市商工会議所

単位数 : なし

定員数 : 40 名

開講期間 : 月 日～ 月 日、開講時間 : 毎週 曜 : ～

開講場所 : 金城大学、JR 松任駅前周辺

■授業の内容 :

本講座は、美術やアートを出発点として、学生がキャンパスからまちへ出て、まちなかに眠っている地域資源を発掘・活用し、地域住民とともにまちなかを活性化していく「プロジェクト型学習」です。

JR 松任駅前通りには旧キリンビール北陸工場から移設した 22 点の彫刻・造形作品群が点在していますが、具体的な活用がなされていません。また、松任駅前地区の賑わいを創出することも地域課題となっています。この講座では、これらの作品群を含んだ松任駅前地区をフィールドとし、まちなか全体を美術館 (ミュージアム) としてとらえ、周辺施設や商店街、また地域住民や関係する団体・組織を巻き込んでの「アート鑑賞ツアー」、「親子でアート体験ワークショップ」などのイベントを企画・実行するプロジェクトとして展開していきます。

■学習目標

- ・アートや美術を契機として、まちへ出て、地域の課題を実際に自分の目で見つける。
- ・アートや芸術をまちづくり活動へつなげていく、展開力を身につける。
- ・コミュニケーション能力、チームで物事を進める力、時間管理術などの社会人としての基礎スキルを身につける。

■成績評価の方法

講義、実習参加状況および参加態度、最終レポートの提出

■講座の流れ

1. ガイダンス、導入講義① 「対話による鑑賞・アートカードを使った鑑賞 1」
2. 導入講義② 「対話による鑑賞・アートカードを使った鑑賞 2」(松任駅前周辺のアートに親しむ)
3. フィールドワーク① 松任駅前「アート鑑賞ツアー」下見・計画・準備
4. イベント実践① 「アート鑑賞ツアー」
地元団体等とのタイアップ企画として実施
5. イベントのふりかえりと次回ワークショップの企画・準備
6. イベント実践②「親子でアート体験ワークショップ」の実施
地元商店街でのイベントにタイアップ、商店街空き店舗の活用
7. 実施報告会にてプレゼンテーション
各イベント参加者、地域自治体、商工会などを招いて活動全体の報告を行う。

■地域課題解決への貢献

- ・学生が触媒となり、地域住民が地元の持つ地域資源に対しての気づきの機会を得ることができる。
- ・商店街、NPO、商工会議所、大学機関と多様な主体の連携により新たなネットワークが構築される。
- ・商店街にとっては、どうすれば学生などの若者が立ち寄る場所になるかというニーズを拾うための意見交換をする契機となる。

【講座プログラム案】単位なし

科目名 : 課題解決型フィールドスタディ ～奥能登インターンシップ～

担当教員 : 西村 貴之 (金沢大学)

連携機関 : 能登定住・交流機構

(珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、志賀町、七尾市、羽咋市、中能登町、宝達志水町)

単位数 : なし

定員数 : 10名

開講期間 : 通年

開講場所 : しいのき迎賓館 (インターンシップ事前学習、事後報告会)、奥能登各フィールド

■授業の内容 :

この科目では奥能登をフィールドとした課題解決型インターンシップを実施する。関係者等へのインタビュー調査、各種施設等への訪問調査を通じて、奥能登地域における地域課題 (特に定住人口、交流人口の拡大) を分析する。その上で、地域課題の解決を目指すビジネスプランを企画しプレゼンテーションを実施する。実際に現地での調査先、訪問先の選定はインターンシップ受入団体である、「能登定住・交流機構」の協力を得て行い、学生の関心事とのマッチングを重視する。

■学習目標 :

- ・ 現地調査を通じた情報収集能力を高める。
- ・ 課題解決にむけてプランをたてる展開力、および他者へプレゼンテーション力を身につける。
- ・ コミュニケーションスキル、チームで物事を進める力、時間管理術などのスキルを身につける。

■成績評価の方法

講義、実習参加状況および参加態度、ビジネスプランのプレゼンテーション、最終レポート提出

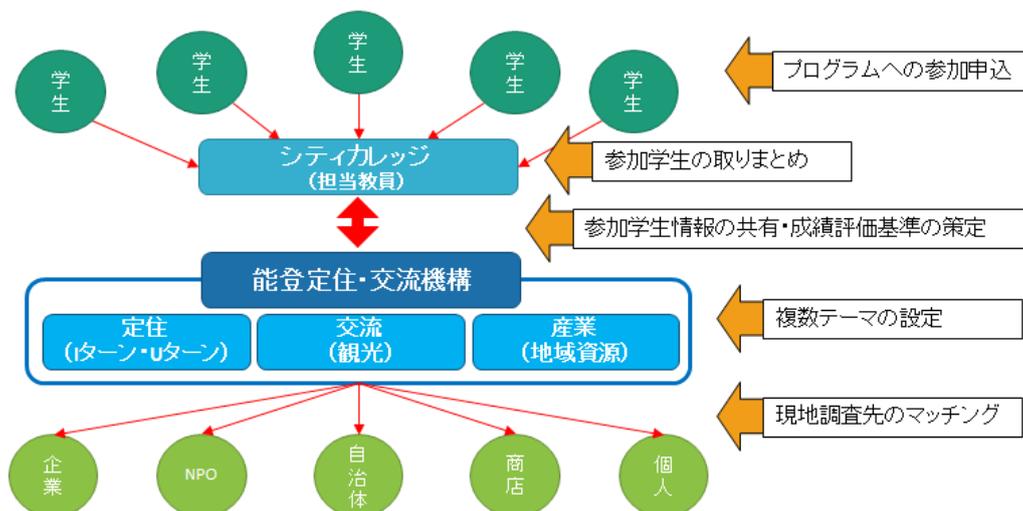
■授業の流れ

1. 全体ガイダンス、導入講義① (4月)
2. 導入講義②、志望理由書の提出 (5月)
3. インターンシッププログラムの決定、事前マナー研修 (6~7月)
4. インターンシップの実施 : 主に長期休業期間中にのべ 40 時間以上 (8 時間×5 日間)
5. 成果報告プレゼンテーションの実施 (9 月末~10 月)

■地域課題解決への貢献

- ・ 学生の視点で地域を見ることで、新たな地域資源の発掘や活性化に向けたプラン構築がなされる。
- ・ 短期的には交流人口の拡大、長期的には将来に向けた移住・定住希望者の発掘につながる。

参考: 能登定住・交流機構との連携スキーム



【講座プログラム案】単位なし

科目名 : 地域再生ワークショップ演習 ～鳥越地域活性化プロジェクト～

担当教員 : 山下 良平 (石川県立大学環境科学科 講師)

単位数 : なし

定員数 : 10名

開講期間 : 調整中、開講時間 : ガイダンス 月 日 : ～、

開講場所 : 白山市鳥越地域

■授業の内容 :

白山市鳥越地域(旧鳥越村)では、市町村合併によりかつての村役場は統合され、現在は白山市鳥越支所として設置されている。今後の行政改革の中においてはこの支所も廃止される方向であり、これまでの各種行政サービスの低下が懸念されている。それに伴い、地域住民においては、過疎化、高齢化、人口減少、買い物難民、地域行事の担い手不足など地域生活の基盤がゆらいでいくことへの不安感もある。その一方で、地域住民が主体となり、地域の暮らしを取り戻していこうとする動きが出始めてきている。

この科目では、このような地域コミュニティの現状課題を現地調査にて理解し、その上で地域住民と協働して、これからの鳥越地域の再生を考えるためのワークショップの企画・運営を行う。最終的にはワークショップの内容をまとめ、地域住民に対して今後進むべき方向性のプレゼンテーションを行う所までもっていきたい。それにより鳥越地域の住民ではない学生の視点が入ることで、今後地域住民が取り組むべき方向性を見出すことに貢献する。

■学習目標

- ・地域の小規模コミュニティが抱える現状と課題について理解する。
- ・地域住民とのワークショップを通じて、現状課題への理解を深めると同時に、コミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルを高める

■成績評価の方法

講義、実習参加、レポート(最終報告書)

■授業の内容

1. 全体ガイダンス、導入講義
- 2～3. 鳥越地域における現地視察 フィールドワークと概況説明 ※鳥越支所職員へ講師依頼
4. 現地視察のふりかえり
5. ワークショップ 概論
- 6～8. 鳥越地域でのワークショップの企画準備・調整
- 9～10. 第1回ワークショップ ※現地住民と合同で実施
11. 第1回ワークショップのまとめと第2回ワークショップの準備
- 12～13. 第2回ワークショップ ※現地住民と合同で実施
14. 第2回ワークショップのまとめと報告準備
15. 鳥越地域でのプレゼンによる最終報告

■地域課題解決への貢献

- ・地域住民自身が自地域の今後のあり方について改めて見つめる契機となる。
- ・地域活性化をリード出来る主体形成と持続的な地域づくりのための計画策定支援についての調査・分析が可能となる。
- ・新たな地域資源を発掘し、それをいかに有効活用するかについての検討を行う事ができる。